



くるめ福祉

1

発行 久留米市社会福祉協議会



あけましておめでとうございます

INDEX

● 令和3年 つながり続ける

- ボランティアセンターからのお知らせ
- 助け合いのしるし「ヘルプマーク」
- 第48回久留米市社会福祉大会
- けんけつちゃんコラム

令和三年 つながり続ける 新しいカタチを見つけて

新年のごあいさつ

久留米市社会福祉協議会
会長 萩原 重信



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆さまにおかれましては、お健やかに新しい年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

また、日頃より本会に対するご理解とご支援に感謝申し上げます。

さて、近年の地域福祉を取り巻く状況をみてみますと、福祉の担い手不足、また地域における支え合いの希薄化などが課題となっています。

そのような中、昨年三月に、市と市社会福祉協議会とで「くるめ支え合うプラ

ン」を策定しました。このプランに基づいて、人と人、人と社会がつながり、一人ひとりが役割や生きがいを持ち、助け合いながら暮らせる「地域共生社会」の実現に向けて取り組みを進めているところです。

一方、昨年来、新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない中で、三密を避けながら、いかにして人と人とのつながりを保つかという新たな課題にも向き合うことになりました。

このような時だからこそ、これまで以上に工夫しながら、互いに支え合うことのできる地域づくりを進めていかなければなりません。

本年も関係団体や住民の皆さまと連携しながら地域福祉の推進を図り、「支え合うこころあふれるまちく

るめ」の実現を目指してまいります。

新型コロナウイルス感染症の流行が始まり、もうすぐ一年が経とうとしています。「新しい生活様式」で過ごす日常も当たり前になってきました。

「ステイホーム」が求められ、家族と過ごす時間が増えた人、人に会う機会が極端に減ってしまった人。この一年で、様々な「つながり」について考えた人も多いのではないのでしょうか。

一人ひとりが三密を避けるなど感染予防を行うことはもちろんですが、そのような中、「支え合い」や「つながり」について考え、活動している人・団体も多くあります。

市社会福祉協議会では、コロナ禍でも前向きに活動する皆さんを応援します。



みんなの予防で明るい一年に

手を洗おう



このコロナ禍で、
子どもから大人まで
誰にでもできること。

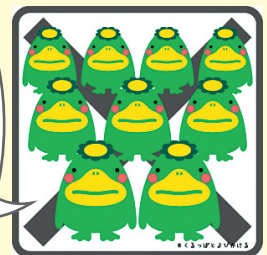
それはやっぱり

一人ひとりが日常の中で
できる限りの「予防」をすること。
基本的な予防方法について
もう一度、確認してみましょう。

窓をあけよう



密をさけよう



マスクをしよう



新しいことに挑戦 ～コロナ禍でもできる防災～

津福校区は、令和2年10月、災害時に避難支援が必要な人たちの避難方法を考えるため、地図を使った訓練(図上訓練)を行いました。

「コロナ禍でもできることを」と、3密にならないように部屋をわけ、リモートで情報を共有する。校区にとっても初めての試みとなりました。

開催にあたっては、インターネット環境を整えるため、コミュニティセンターにWi-Fi(ワイファイ)を完備。市民活動サポートセンターみんくるの協力のもと、勉強会も行いました。

「日頃お会いすることがないから、どんな支援を必要としているかわからない」「自分たち以外に協力者がいない」といった声もあり、日頃から顔見知りになっておくことや、地域で支え合いを広めていくことの重要性を感じる訓練となりました。

また、今後はリモートの活用等、新しい時代に合わせたやり方で、「名簿の登録者が自宅で訓練に参加できるようにしていきたい」など前向きな声も聞かれました。



避難ルートや避難方法を考えているところ



部屋は別々でもリモートで発表内容を共有

離れていても心はひとつ

合川校区市ノ上自治会のふれあいの会は「おうちサロン」を開催しました。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、各地域で行われているいきいきサロンも自粛となりましたが、「楽しみにされている人たちのために何かできないか」と考えた活動です。

脳トレなどのプリントを事前に配布し、参加者が同じ時間に同じことをそれぞれの自宅で楽しむ。同じ空間にいないくても、心はつながっていると感じてもらえる工夫です。

事前にご自宅を訪問し、話をする中で、変わったことがないかの確認もでき、参加者にも大変喜ばれています。不在の時でもメッセージを添えるなど、直接顔を合わせられなくてもつながり続ける活動が積極的に行われています。



◀活動している皆さん
(撮影時以外はマスク着用)

ひとりじゃないよ

ツインズクラブは、双子、三つ子を育てている保護者が集まり、多胎児育児特有の悩みを相談したり、育児サポート等を行っている団体です。代表の村井さんは、この4月から「コロナだからできること」を考え、保護者を対象にGoogleアンケートを行いました。コロナ禍での過ごし方を聞いたところ、様々な工夫が見えてきたそうです。その工夫をSNSで紹介。双子の写真を掲載したり、月齢・年齢別のオススメの過ごし方など、日々の生活を楽しむ工夫がされています。

自粛期間中は、人に会えず、孤独を感じる母親たちも多かったと言います。何気ないことに怒ってしまったり、手をあげそうになってしまうという保護者の話に寄り添い、受け止めることが、「ひとりじゃない」ということを伝えることにもつながっています。「コロナ禍で思ったことは、日頃からのつながりが大事だということ。困ったときに困ったと言える関係をつくっておく必要がある。」と話されました。

問合わせ

ツインズクラブ (代表:村井 麻木)
TEL 090・3417・0476
Instagram
twins_club.kurume



笑顔で迎えてくれる代表の村井さん

皆さんの工夫を聞かせてください

「くるめ福祉」では、今後もコロナ禍での活動などを紹介していきます。コロナに負けず、前向きに取り組んでいる団体や、あなた自身が生活の中でやっている工夫など、ぜひ私たちに教えてください。詳しくは、7ページの『「くるめ福祉」アンケート』をご覧ください。

ボランティア入門講座 草刈機を使ったボランティア募集

今回の講座は、草刈機の安全な使い方を学んだ後に、地域に出向いて草刈りをし、地域の支え合いをしていただくための講座です。草刈りをきっかけに、地域活動を始めませんか？



日 時 3月3日(水) 13時30分～16時
会 場 市総合福祉センター
 (長門石1丁目1番34号)
対 象 ①地域活動に興味がある人
 ②講座受講後、受講生でグループを結成し、地域の支え合い活動にボランティアとして参加できる人
※上記①～②をクリアできる人
定 員 20人(応募多数の場合は抽選)
講 師 市都市公園管理センター職員
参 加 費 無料
応募方法 電話、FAXにて申し込み
申込み締切日 2月22日(月)
持ってくるもの 草刈機(持参可能な人)、飲み物、マスク、筆記用具、タオル

中高生ボランティア体験講座 受講者募集

①手話で話そう
日時 3月25日(木) 9時～16時30分
集合場所 市総合福祉センター(長門石1丁目1番34号)
会場 久留米聴覚特別支援学校(高良内町2935)
内容 聴覚に障害のある子どもたちとの交流を通して、耳が聞こえにくいということや簡単な手話について学びます。
②みんなでバスハイク
日時 3月26日(金) 8時30分～16時30分
集合場所 市総合福祉センター
内容 聴覚に障害のある子どもたちとバスハイク
※新型コロナウイルス感染症の影響により内容の変更や中止になる場合があります。
《対象》
 ●市内に居住または市内の学校に通っている中学生、高校生
 ●両日とも参加できる人
 ●講座後、難病者、障害者のイベント支援や街頭募金等のボランティア活動に参加することが可能な人
《定員》 8人(応募多数の場合は抽選)
《参加費》 無料(昼食は主催者で準備します)
《締切》 2月26日(金) 17時まで

第42回久留米市ボランティア フェスティバル開催

3月14日(日)久留米市ボランティアフェスティバルを開催します。

これまでフェスティバル当日は、市内のボランティア団体が一堂に会していましたが、今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、**YouTubeやZoomを使って配信する、新しいかたちで開催**します。

当日は市内で活動するボランティア団体の紹介や、地域のサロン活動等を紹介する予定です。



吉本興業所属のお笑いコンビ
サンシャインも出演予定

生活困窮者支援にお米の寄付

新型コロナウイルス感染症の影響で、食べるものがないなど、多くの相談が寄せられています。

そのような中、荒木町在住の道城隆様よりお米の寄付をいただきました。寄付いただいたお米は、市内で食糧支援をしているボランティア団体を通じて必要な世帯へ提供いたしました。

市社会福祉協議会ボランティアセンターでは、**引き続きお米の寄付を受付けています**。皆さまのご支援・ご協力をお願いします。

【寄付の方法】

市社会福祉協議会ボランティアセンターへ事前連絡の上で持参ください。
 (量が多い場合、ご持参できない場合はご相談ください。)



道城さん(写真右)

【申込み・問合わせ】市社会福祉協議会ボランティアセンター TEL 0942・34・3035 FAX 0942・34・3090